

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年6月30日 (2011.6.30)

【公表番号】特表2010-527593(P2010-527593A)

【公表日】平成22年8月19日 (2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2010-033

【出願番号】特願2010-508676(P2010-508676)

【国際特許分類】

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/14 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 7/00

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 14/14

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月12日 (2011.5.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の突然変異を含む変異レオウイルスであって、前記第 1 の突然変異は、シグマ 3 ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ 3 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、または機能性シグマ 3 ポリペプチドの不在をもたらす、変異レオウイルス。

【請求項 2】

前記第 1 の突然変異は、前記シグマ 3 ポリペプチドをコードする核酸内、または前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を調整する核酸内にある、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 3】

前記核酸は、S 4 遺伝子である、請求項 2 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 4】

前記第 1 の突然変異は、遺伝子操作された置換である、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 5】

前記第 1 の突然変異は、1 つもしくは複数のヌクレオチドの遺伝子操作された挿入また

は欠失である、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 6】

1 つもしくは複数のさらなる突然変異をさらに含む、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 7】

前記さらなる突然変異は、

ミュー 1 ポリペプチドの発現を減少させる、ミュー 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ミュー 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、

ラムダ 2 ポリペプチドの発現を減少させる、ラムダ 2 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ラムダ 2 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、および / または

シグマ 1 ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性シグマ 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、からなる群から選択される、請求項 6 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 8】

前記第 1 の突然変異は、前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を少なくとも 30 % 減少させる、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 9】

単離されたレオウイルス感染性サブウイルス粒子 (ISVP) であって、突然変異を含む核酸を含み、前記突然変異は、シグマ 3 ポリペプチドの発現を減少させ、シグマ 3 ポリペプチドの発現の欠失をもたらし、または、非機能性シグマ 3 ポリペプチドの発現をもたらす、単離されたレオウイルス感染性サブウイルス粒子 (ISVP)。

【請求項 10】

前記突然変異は、前記シグマ 3 ポリペプチドをコードする核酸内、または前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を調整する核酸内にある、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 11】

前記核酸は、前記 S 4 遺伝子である、請求項 10 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 12】

前記突然変異は、置換である、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 13】

前記突然変異は、1 つもしくは複数のヌクレオチドの挿入または欠失である、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 14】

1 つもしくは複数のさらなる突然変異をさらに含む、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 15】

前記さらなる突然変異は、

ミュー 1 ポリペプチドの発現を減少させる、ミュー 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ミュー 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、

ラムダ 2 ポリペプチドの発現を減少させる、ラムダ 2 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ラムダ 2 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、および / または

シグマ 1 ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性シグマ 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、からなる群から選択される、請求項 14 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 16】

前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を少なくとも 30 % 減少させる、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 17】

増大した感染力を有するレオウイルスを作製する方法であって、

変異レオウィルスを生産するように第 1 のレオウィルスを突然変異させるステップであって、前記変異レオウィルスは、シグマ 3 ポリペプチドの発現減を呈する、シグマ 3 ポリペプチドの発現を欠く、または非機能性シグマ 3 ポリペプチドを発現する、ステップと、前記変異レオウィルスを単離するステップであって、前記変異レオウィルスは、前記第 1 のレオウィルスと比較して増大した感染力を有する、ステップと、を含む、方法。

【請求項 18】

前記増大した感染力は、前記第 1 のレオウィルスと比較して、前記変異レオウィルスによって感染することができる腫瘍細胞の範囲の増加、または前記第 1 のレオウィルスと比較して、前記変異レオウィルスによって感染される細胞の数の増加によって証明される、請求項 17 に記載の方法。

【請求項 19】

遺伝子操作されたレオウィルス感染性サブウィルス粒子 ( I S V P ) を得る方法であって、

シグマ 3 ポリペプチドの発現減少を呈するように、シグマ 3 ポリペプチドの発現を欠くように、または非機能性シグマ 3 ポリペプチドを発現するように、第 1 のレオウィルスを遺伝子操作するステップと、

前記遺伝子操作されたレオウィルスを培養するステップと、

I S V P を単離し、それによって遺伝子操作されたレオウィルス I S V P を得るステップと、を含む、方法。

【請求項 20】

請求項 1 に記載の前記変異レオウィルス、または請求項 9 に記載の前記単離されたレオウィルス I S V P を含む、増殖性疾患の治療用組成物。

【請求項 21】

手術、化学療法、放射線治療、および免疫抑制療法からなる群から選択される手順のうちの少なくとも 1 つととも使用される、請求項 20 に記載の組成物。

【請求項 22】

請求項 1 に記載の前記変異レオウィルス、または請求項 9 に記載の前記単離されたレオウィルス I S V P を含む、医薬組成物。

【請求項 23】

1 つもしくは複数の化学療法薬および / または 1 つもしくは複数の免疫抑制剤をさらに含む、請求項 22 に記載の医薬組成物。

【請求項 24】

突然変異を含むシグマ 3 ポリペプチドであって、前記突然変異は、ウィルスのカプシドに組み込まれない、または減少されたレベルで前記カプシドに組み込まれるシグマ 3 ポリペプチドをもたらす、シグマ 3 ポリペプチド。

【請求項 25】

請求項 19 に記載の方法によって得られる単離された I S V P。